

令和4年度 大分県学力定着状況調査

臼杵市の結果の受け止め
(分析および今後の取組み)

臼杵市教育委員会

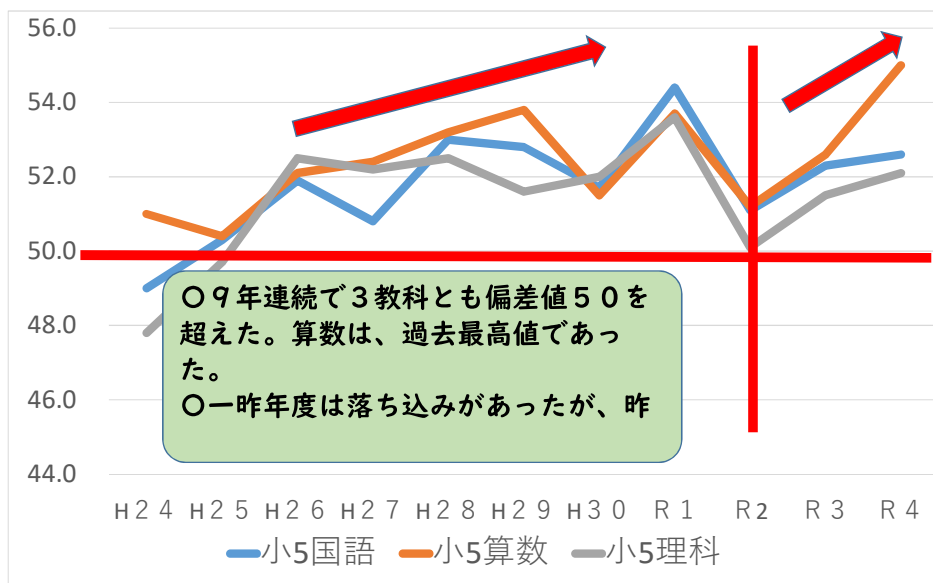
白杵市の偏差値の推移（平成24年度～令和4年度） 小学校

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
小5国語	49.0	50.3	51.9	50.8	53.0	52.8	51.7	54.4	51.1	52.3	52.6
小5算数	51.0	50.4	52.1	52.4	53.2	53.8	51.5	53.7	51.2	52.6	55.0
小5理科	47.8	49.7	52.5	52.2	52.5	51.6	52.0	53.6	50.1	51.5	52.1

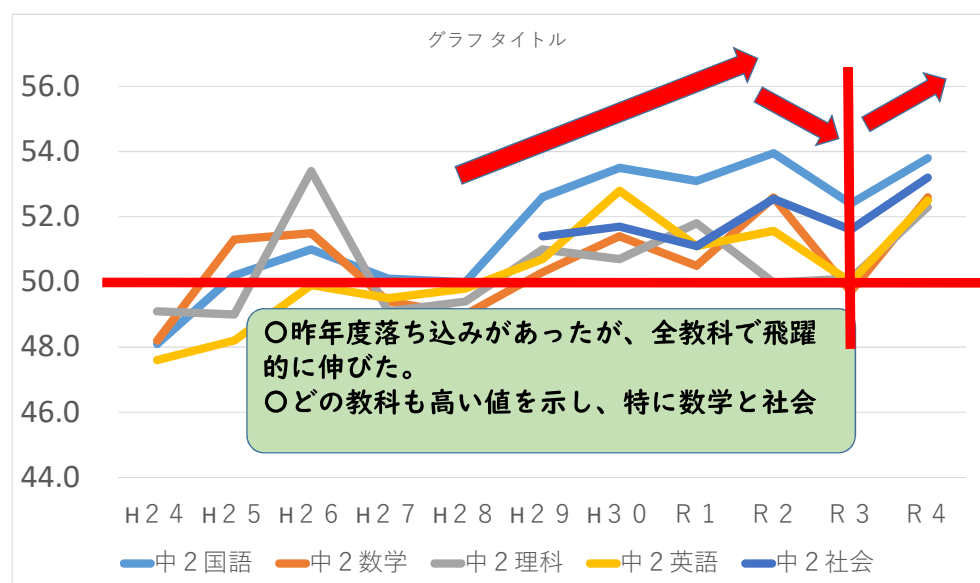
白杵市の偏差値の推移（平成24年度～令和4年度） 中学校

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
中2国語	48.1	50.2	51.0	50.1	50.0	52.6	53.5	53.1	54.0	52.4	53.8
中2数学	48.2	51.3	51.5	49.4	49.0	50.3	51.4	50.5	52.6	49.7	52.6
中2理科	49.1	49.0	53.4	49.1	49.4	51.0	50.7	51.8	50.0	50.1	52.3
中2英語	47.6	48.2	49.9	49.5	49.8	50.7	52.8	51.1	51.6	50.0	52.5
中2社会						51.4	51.7	51.1	52.6	51.6	53.2

白杵市の偏差値の推移グラフ（平成24年度～令和4年度） 小学校

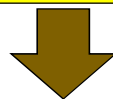


白杵市の偏差値の推移グラフ（平成24年度～令和4年度） 中学校



同一集団の経年比較データ (R1小5 → R.4 中2)

R1(小5)	国語			算数			理科		
	合計	知識	活用	合計	知識	活用	合計	知識	活用
臼杵市平均	54.4	54.3	53.5	53.7	53.3	54.0	53.6	54.0	51.7
大分県平均(市町村立学校)	52.2	52.1	51.6	52.3	52.2	52.1	52.1	52.4	51.3
県との差	+ 2.2	+ 2.2	+ 1.9	+ 1.4	+ 1.1	+ 1.9	+ 1.5	+ 1.6	+ 0.4



R4(中2)	国語			数学			理科		
	合計	知識	活用	合計	知識	活用	合計	知識	活用
臼杵市平均	53.8	53.8	53.2	52.6	52.9	51.6	52.3	51.8	51.8
大分県平均(市町村立学校)	51.4	51.4	51.2	51.2	51.4	50.3	50.9	50.8	50.8
県との差	+ 2.4	+ 2.4	+ 2.0	+ 1.4	+ 1.5	+ 1.3	+ 1.4	+ 1.0	+ 1.0

小学校5年(R1) ⇒ 中学校2年(R4)の変化

	国語			算数・数学			理科		
	合計	知識	活用	合計	知識	活用	合計	知識	活用
偏差値の差 (3年間の経年変化)	- 0.6	- 0.5	- 0.3	- 1.1	- 0.4	- 2.4	- 1.3	- 2.2	+ 0.1
県との差 (3年間の経年変化)	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1	0	+ 0.4	- 0.6	- 0.1	- 0.6	+ 0.6

令和4年度 大分県学力定着状況調査 小学校 国語

1. 結果の概要

	合計	知識	活用
臼杵市 (偏差値)	52.6	51.9	53.1
大分県 (偏差値)	51.6	51.3	51.9

2. 学びの成果が見られる枝間 (目標値に対して+10ポイント以上)

○【大問1-(2)】	話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている。(+11.0)
○【大問2-(1)①②③】	第4学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。(機械+14.6 栄養+12.2 浴びる+13.4)
○【大問2-(2)①】	第4学年で配当されている漢字を正しく書いている。(周辺+14.8)
○【大問3-(1)】	連体修飾語について理解している。(+19.4)
○【大問4-(3)】	文章を読んで感じたことや考えたことを共有している。(+22.7)
○【大問7】	文章を書く。(指定された長さで文章を書いている。+14.4) (段落の役割を理解し、2段落構成で文章を書いている。+25.8) (内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている。+20.8) (内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いている。+23.7)

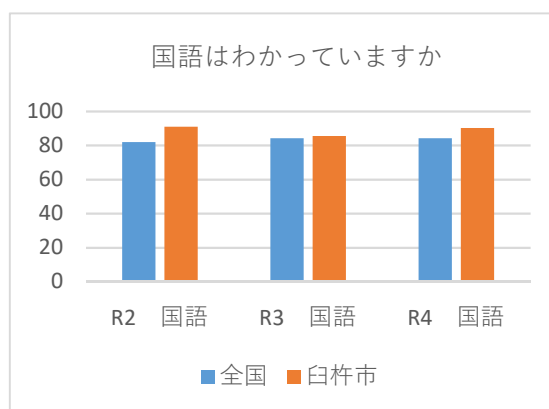
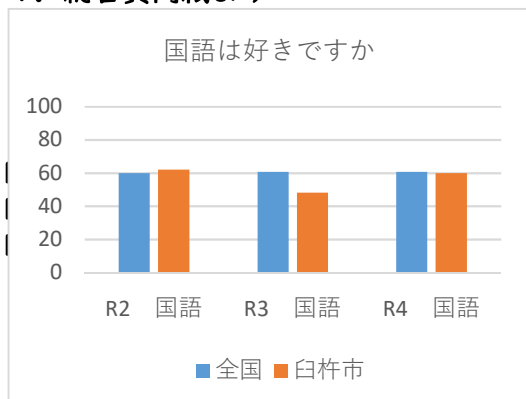
3. ①課題の見られる枝間 (目標値に対して-5ポイント以上)

○【大問2-(2)②③】	第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。(札 -9.8 覚める-17.2)
○【大問3-(2)】	連用修飾語について理解している。(-16.0)
○【大問4-(1)】	登場人物の気持ちについて、叙述をもとに捉えている。(-11.2)

②課題の見られる枝間 (正答率が50%以下の問題)

○【大問4-(1)】	登場人物の気持ちについて、叙述をもとに捉えている。(48.8)
○【大問6-(1)】	情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している。(39.1)
○【大問6-(2)】	意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(43.1)

4. 総合質問紙より



5. 調査結果をふまえた授業改善のポイント

○【大問2-(2)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	臼杵市正答率	県正答率	全国正答率
漢字を書く(札)	第4学年の配当漢字を書くことができる	65	55.2	57	77.6
(解答累計)「札」		(考察)			

正答	55.2
上記以外の解答	26.6
無解答	18.1



「札」の漢字の書きの全国の正答率は77.6であったのに対して、市の正答率は55.2であり、-22.4であった。「札」と誤答した生徒がいたものと思われる。全問題の中で、無回答率が2番目に高く18.1であった。

○【大問2-(3)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	臼杵市正答率	県正答率	全国正答率
漢字を書く(覚める)	第4学年の配当漢字を書くことができる	75	52.8	70.8	81.1
(解答累計)「覚める」		(考察)			

正答	52.8
上記以外の解答	16.9
無解答	14.9



「目が覚める」の漢字の書きの全国の正答率は81.1であったのに対して、市の正答率は52.8であり、-28.3であった。「冷める」と誤答した生徒がいたものと思われる。やはり無回答率が高く、14.9であった。

【大問3 - (2)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白河市正答率	県正答率	全国正答率
言葉の学習	連用修飾語について理解している	40	26.6	24	20.7

- 3 1 教室の
絵を
4 2 みんなの
かざる

教室のかべに、みんなの絵をかざる。

(2) 次の文の「かべに」は、どの言葉をくわしく説明(修飾)していますか。あとから一つ選んで、その番号を書きましょう。

(解答累計)	
1	55.6
2	4.4
3	13.3
4	26.6

(考察)

連用修飾語を問う問題で、正答率は26.6である。55.6の誤答が①の「教室の」を選択している。これは、連体修飾語を求める(1)の問題が「音が」を詳しくしている言葉(修飾語)を選びなさいで、正答は「ピアノの」である。(2)は、「かべに」はどの言葉を詳しく説明(修飾)していますかと問われているので、正答は④の「かざる」である。(1)の問題と問われていることを混同したため、①の「教室の」を選択したものと思われる。問われていることをしっかりと読む必要がある。

○【大問4 - (1)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白河市正答率	県正答率	全国正答率
物語の内容を読み取る	登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている。	60	48.8	48.2	46.8

4 次の文章を読んで、下の問題に答えましょう。

直也は、全校児童が七人の小学校の四年生だ。ただ一人の六年生だった元一が引こすことになり、全校児童を見送っている。

「おうい、そろそろ行くぞよ。」と、元一の父ちゃん、直也はつべんにむねがふさふさした。その声も聞いたら、直也はつべんにむねがふさふさした。のどあたりも、鼻の先も、おねの真ん中もツンとした。みんなもそろそろしくじつと息をこらした。たちまち重苦しいふん気がはりつめた。

元一がそれをこわすように、ふり返って返事をした。行くぞよ。

おどけて元一が言うと、元一のかげによりそうように、さわざわとみんなのかげがほんの少し動いた。鼻づばしのいちばん強かった咲子が、今日は全然何も言わない。真つ先に目なみだをためている。それでも、何か言いたいのが、しきりに直也の背中をつつした。

「元ちゃん、元気でね。みんなて手紙書くから。」と、直也がなみだで言った。

「やめろよ、まいるぜ。ナア。」

と、元一が直也をこらした。

みゆきがヒクヒクしゃくり上げた。

「みゆき、おまえ、十五メートル泳げるようになってよかつたな。」

元一はそう言うど、ボンとみゆきの頭の上に手をのせた。

「みんな元気でな。」

元一は車の方にけるようにかけた。元一を乗せた車は、警笛を一回もの鳴く鳴らして出発した。

「元気でね。元ちゃん。」

車から体を乗り出して元一が手をふた。それから、一度ぐいっことこぶして顔をめぐらした。笑おうとしていたけれど、笑い顔にならなかった。くちびるをきゅつと結んでいる。直也たちは口々に何かさけんだり、手をふたりしながら笑いかけた。

元一も何か言いたそうだった。

「……」

手をびるびるふんふんしている。車はスピードを上げ、だんだん遠のいていく。そして、もう一回警笛が「ハオ」って鳴ると、カーブを曲がっていってしまっただけ。

(直也は「平」なま「よし」)

※注 警笛は車のクラクションなどの音。

- ① 元一は、どのように「行くぞよ」と言いましたか。次から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 みんなと別れるつらさをにじませながら、つまらなそうに言った。
- 2 場のふん気を換えようと思つて、わざとふざけた感じで言った。
- 3 出発を急がせる父親にいらだつて、不満をぶつけるように言った。
- 4 新しい生活への希望におねをふくらませて、明るい調子で言った。
- ② 「元一はそう言うど、ボンとみゆきの頭の上に手をのせた」という部分から、元一について、どのようなことが分かりますか。次から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 下級生を気づかうやさしきがあること。
- 2 おつちよこちよいなどころをすぐに注意すること。
- 3 友達への思いとこころをすぐに注意すること。
- 4 何でも自分の思いどおりに進めたいこと。
- ③ 上の文章を読んだ高橋さんと田中さんが、次のように話し合いました。□に入る言葉を、あとから一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 高橋「元一は車の方にけるようにかけたんだ」とあるね。元一は、みんなが自分のために泣くのを見て、はずかしくなつたんだと思う。」
- 田中「たしかに、やめろよ、まいるぜ」と言っているのだから、元一も涙み取れるね。でもそれだけではなく、車から体を乗り出して元一の様子に注目するど、□にけるようにかけたしたとも読み取れるよ。」
- ④ 新しい土地での生活を楽しみにしていることが申しわけなく、
- 2 車の中で待っていた父ちゃんがおこっていることに気づいて、
- 3 直也たちがいつまでも悲しそうにしているのどにはらを立てて、
- 4 別れのつらさを感じながら、それを何とかがりきろうとして、

(解答累計)

1	23
2	48.8
3	9.3
4	19

(考察)

文章の上述をもとに、登場人物の心情を捉える問である。お別れの場面で、6人の子どもたちが別れを惜しんでいる。「重苦しいふん気がはりつめた」「おどけて元一がいうと」の叙述から、正答は②「場の雰囲気を変えようと、わざとふざけた感じで言った」である。①の誤答は、「別れるつらさをにじませながら」④の誤答は、「明るい調子で」が叙述からうかがえるが、その他の表現が合わない。

○【大問6－(1)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
調査の結果をもとに話し合う	情報と情報の関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している。	40	39.1	38.4	35.3

大田 「おすすめの本をしようかいいすることに賛成です。でも、あえて、好きな本の種類で、回答が少なかったものをしようかいいするほうがよいと思います。そうすれば、新しい本に出会う楽しさを知ってもらえると、意外なおもしろさを感じてもらえるかもしれません。」

村上 「賛成です。それに、調査の結果から、本を読まなかった理由として、時間がないことを挙げる人が多いです。そこで、読書の時間をいつ作ればよいかをアドバイスしてはどうでしょうか。」

司会 「調査の結果をもとに、大田さんと村上さんの考えを合わせると、よいでしょうかいできそうですね。例えば、**イ**ことをすすめるという

しつ問1 この一週間に、家で本を読みましたか。
・読んだ…20人 ・読まなかった…15人

しつ問2 (読まなかった人に) 読まなかったのはなぜですか。
・読みたい本がなかったから…7人
・テレビや動画を見るのに時間を使ったから…3人
・遊ぶのに時間を使ったから…3人
・習い事でいそがしかったから…2人

しつ問3 (読んだ人に) その本を読んだきっかけは何ですか。
・学校図書館で見つけた…7人
・本屋さんで見つけた…5人
・友達にすすめられた…5人
・家族にすすめられた…3人

しつ問4 好きな本の種類は何ですか。
・物語…10人 ・スポーツの本…8人
・れきしの本…7人 ・科学の本…6人
・伝記…3人 ・詩集…1人

6 五年一組の図書係は、クラス全員(三十五人)を対象にしたアンケート調査の結果をもとに話し合っています。次の「調査の結果」と「話し合いの様子」を読んで、あとの問題に答えましょう。

- (1) 「話し合いの様子」の「ア」に入る文を、「調査の結果」をもとに、二十字以上、四十文字以内で書きましょう。
- (2) 「話し合いの様子」の「イ」に入る言葉を、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 物語を、友達と感想を伝え合いながら読む
 - 2 伝記を、ゆつくり時間をかけて読む
 - 3 詩集を、勉強の休みの時間に読む
 - 4 スポーツの本を、夜ねる前に読む

司会 「結果について、気になることはありますか。」

大田 「本を読まなかった理由で、『読みたい本がなかったから』と答えた人が多いのが気になります。本に興味がないということだと思います。」

司会 「では、本に興味をもってもらうには、どうすればよいと思いますか。」

村上 「わたしは、身近な人がすすめてくれた本に興味があります。わたしたちのおすすめの本をしようかいいしてはどうでしょうか。」

中山 「たしかに、本を読んだきっかけについてのしつ問では、**ア**の数は、『学校図書館で見つけた』と答えた人数を上回っています。好きな本の種類で、回答が多かったものの中から、図書館のおすすめの本をしようかいいしてはどうでしょうか。」

司会 「今の意見について、ほかの人はどうですか。」

話し合いの様子

1	「友だちにすすめられた」と「家族にすすめられた」が合わせて八人という内夜を20字以上40字以内で書いている。	25.8
2	「友だちにすすめられた」が五人、「家族にすすめられた」が三人や「友達や家族にすすめられた人が多い」という内容を20字以上40字以内で書いている	13.3
3	上記以外の解答	41.9
4	無回答	19

(考察)

調査の結果と話し合いの様子を関連付けて考える問である。「身近な人が進めてくれた本に興味をわくこと」「学校図書館で見つけたより答えた人数を上回っている」から「身近な人のすすめで」「学校図書館で見つけたの7人より多い」条件をで(ア)には書かなくてはならない。誤答の多くは、身近な人ではある「友だちにすすめられた」と書いたが、7人を上回る条件を満たしていなかったと思われる。無回答も19%と多くなっている。

○【大問6－(2)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
調査の結果をもとに話し合う	意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。	45	43.1	44.3	42

(解答累計)

1	43.5
2	8.5
3	43.1
4	2



(考察)

おすすめの本を紹介するために、「あえて、好きな本の種類で、回答が少なかったもの」「本を読まなかった理由として時間がないことを挙げる人が多いので読書の時間をいつ作ればよいかをアドバイス」の2つの条件を満たしたものを、調査の結果をもとに選ぶ必要がある。正答は③の「詩集を、勉強の休憩時間に読む」である。半数近くの子が誤答した「物語を、友だちと感想を伝え合いながら読む」は、確かに正しい読み方(学校でよく行う)だが、条件は1つも満たしていない。【調査結果】と【話し合いの様子】を比較せず、感覚で選んだものと思われる。

○全体の結果から

昨年度の意識調査では、「国語が好き」を肯定的に回答した児童は、一昨年度より14%も下り48.1%であった。今年度は、全国平均並みの59.9%と12%近く上がった。「文章を書く」では、指定された長さで文章を書いている(+14.4)、段落の役割を理解し、2段落構成で文章を書いている(+25.8)、内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている(+20.8)、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いている(+23.7)、と高く、臼杵市の児童が得意としている。「説明文の内容を読み取る」は、昨年度まで苦手としていたが、今年度は目標値に達している。その単元でどのような力をつけるかを明確にした授業を行ってきた成果であろう。

「漢字を正しく書く」は、昨年度も目標値に到達しなかった内容である。漢字の反復練習は、着実な効果が期待できるが、やみくもに繰り返して書くだけでは、単調で飽きやすく、また、頭を働かせずに機械的に取り組んでいるとなかなか覚えられない場合が少なくない。

○意味を理解しながら学習する。「記号」としてでなく、意味を確認してから覚える。

○漢字を構成する「部首」の意味を理解し、「なぜそのような意味かを」理解しながら覚える。

○文章の中にある漢字にふれ漢字の習得を行う。読書を通して漢字を学び、分からない漢字があれば、読みや意味を確認したり、その字をノートに練習する。

○進出漢字の練習が普段の家庭学習になるため、授業のノートや日記等で既習漢字を使う「主体的・対話的で深い学びを促すためのこれからの国語科の授業づくり（平成31年度大分県教育委員会）」の8つの視点での授業改善を今後とも行っていく必要がある。

※「これからの国語科授業づくり」

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ①児童生徒が興味を持つ教材・題材 | ②魅力的な課題の提示、児童による課題の発見 |
| ③学習の見通し、本時の目標（めあて）の明示 | ④課題解決的な学習、既習事項を活用する学習 |
| ⑤自分の考えを発表・交流する場 | ⑥「できた」「わかった」の実感 |
| ⑦「できたこと」「わかったこと」 | ⑧日常生活、社会生活への広がり |



令和4年度 大分県学力定着状況調査 小学校 算数

1. 結果の概要

	合計	知識	活用
臼杵市 (偏差値)	55	55	54.3
大分県 (偏差値)	52.9	52.9	52.4

2. 学びの成果が見られる枝間 (目標値に対して+10ポイント以上)

- 【大問2】 与えられた分数を数直線上に示すことができる。(+10.5)
- 【大問5-(1)】 千の位までの概数の表し方を理解している。(+17.8)
- 【大問6-(2)】 小数第1位+小数第2位の計算ができる。(+10.7)
- 【大問6-(3)】 帯分数-真分数=真分数(繰り下がりあり)の同分数の計算ができる。(+12.5)
- 【大問7-(1)】 基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶことができる。(+15.4)
- 【大問8】 2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べることができる。(+16)
- 【大問9-(1)】 四則や()の混じった計算順序を理解している。(+14.3)
- 【大問10-(1)】 分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み方を理解している。(+13.5)
- 【大問10-(2)】 360度より小さい角の大きさを求めている。(+10.9)
- 【大問14】 平行四辺形の作図ができる。(+24.0)
- 【大問15-(2)】 伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができる。(+14.2)
- 【大問16-(2)】 2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取ることができる。(+24.4)
- 【大問17-(2)】 二次元表の読み方を理解している。(+22.9)
- 【大問18-(1)】 示された考えを基に、数の相対的な大きさを使って、分数の加法を整数の加法に直して処理する 方法を説明している。(+11.9)
- 【大問18-(2)】 乗法の性質を理解している。(+17.0)

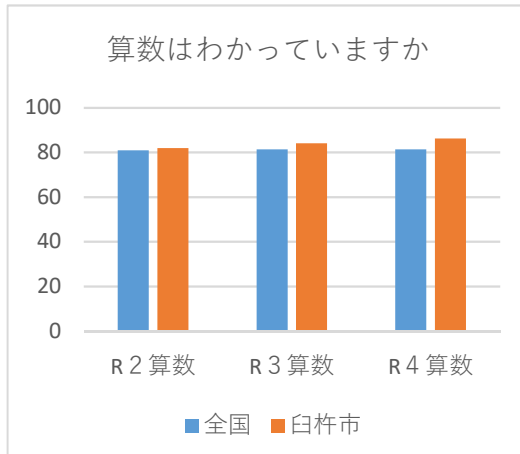
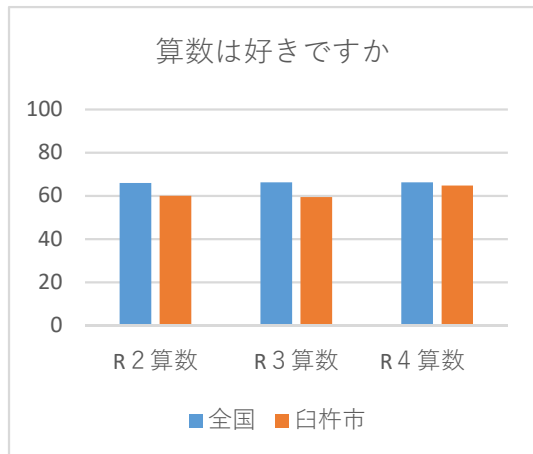
3. ①課題の見られる枝間 (目標値に対して-5ポイント以上)

- 【大問4】 整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較をしている。(-8.5)
- 【大問11-(1)】 教室のおよその面積を選んでいる。(-6.1)
- 【大問11-(2)】 面積の単位の関係を説明している。(-12.5)

②課題の見られる枝間 (正答率が50%以下の問題)

- 【大問4】 整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較をしている。(41.5)
- 【大問11-(1)】 教室のおよその面積を選んでいる。(43.9)
- 【大問11-(2)】 面積の単位の関係を説明している。(17.5)
- 【大問17-(1)】 図書室を先週使った人数と、今週利用した人数の違いを求めるのに必要な二次元表の図を示し、その求め方を説明している。(28.0)
- 【大問18-(1)】 示された考えを基に、数の相対的な大きさを使って、分数の加法を整数の加法に直して処理する 方法を説明している。(41.9)

4. 総合質問紙より



5. 調査結果をふまえた授業改善のポイント

○【大問4】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
分数	整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較をしている。	50	41.5	44.3	44.4

- 4 の中の4まいのカードを、書いてある数が小さい順に、左からならべます。、にあてはまるカードの組み合わせを正しく表しているものはどれですか。答えは1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。



↓ならべかえる。



- 1 ア 2 イ $\frac{13}{9}$
 2 ア $\frac{8}{9}$ イ $1\frac{5}{9}$
 3 ア $\frac{8}{9}$ イ $\frac{13}{9}$
 4 ア $\frac{13}{9}$ イ $1\frac{5}{9}$

(解答累計)

1	31.7
2	41.5
3	22.8
4	3.3



(考察)

同分母の分数の大小比較の問である。正答は、 $\frac{8}{9}$ 、 $\frac{13}{9}$ 、 $1\frac{5}{9}$ 、2の順であり②である。誤答の①が多いのは大きい順に並べたためであり、問題を正しく読んでいない。誤答の③は、 $1\frac{5}{9}$ を仮分数に直さず大小比較できなかったためと思われる。

○【大問11- (1)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
面積	教室のおよその面積を理解している	50	43.9	40.2	36.7

- (1) 教室のおよその面積はどれですか。答えは1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 およそ600cm²
 2 およそ6m²
 3 およそ6km²
 4 およそ60m²

(解答累計)

1	7.7
2	43.5
3	4.5
4	43.9

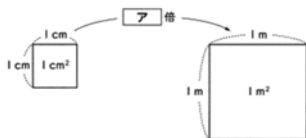
(考察)

身近にあるもののおよその面積を求める問題。毎年、この問題を苦手とする傾向がある。(一昨年度の切手の面積の正答率は64.9、昨年度の1000円札の面積の正答率は33)正答は、④のおよそ60m²である。②を選択した誤答が多いが、6m²は車1台分の面積である。1m²の大きさを十分にイメージできていないためと思われる。また教室は8m×8mだとおおよその大きさをイメージすることができなかったためと思われる。

○【大問11- (2)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
面積	面積の単位関係を説明している	30	17.5	21.1	19.8

- (2) ゆきこさんは、1m²が何cm²になるかを、1辺の長さが何倍になっているかをもとに考えました。



1辺の長さをもとにした考え

1辺の長さが1mの正方形の面積は、 $1 \times 1 = 1 = 1\text{m}^2$ になります。
 1mは、1cmの 倍になるので、1m²の面積は1cm²の面積の 倍になります。
 だから、1m² = cm²です。

ア、イに数をあてはめて、1辺の長さをもとにした考えを完成させましょう。

(解答累計)

正答	21.1
誤答	71.6
無解答	7.3



(考察)

1m²は何cm²かを問う問題である。正答はアが100倍、イが10000倍である。正方形の面積は1辺の長さ×1辺の長さなので、 $1\text{m} \times 1\text{m} = 100\text{cm} \times 100\text{cm}$ であり1m² = 10000cm²になる。誤答として考えられるのは、1mの長さは1cmの100倍であるということから、面積も100倍であると考えたのではないだろうか。

○【大問17-(1)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白河市正答率	県正答率	全国正答率
折れ線グラフと表	図書室を先週使った人数と、今秋利用した人数の違いを求めするのに必要な二次元表の図を示し、その求め方を説明している	30	28	24	17.6

- 17 るいさんとあやのさんは、図書委員をしています。
 るいさんとあやのさんは、5年生の、図書室を利用した人数を調べるために、先週と今週に図書室を利用したかどうかのアンケートを行いました。
 次の表はその結果をまとめたものです。

5年生の図書室の利用調べ (人)

		今週		合 計
		利用した	利用しなかった	
先週	利用した	ア 36	イ 20	ウ 56
	利用しなかった	エ 12	オ 18	カ 30
合 計		キ 48	ク 38	ケ 86



図書室を今週利用した人数と、今週利用しなかった人数のちがいを求めるには、キとクをくらべればいいね。



図書室を今週利用した人数と、先週利用した人数のちがいを求めるには、どれとどれをくらべればいいかな。

- (1) 5年生で、図書室を今週利用した人数と、先週利用した人数をくらべるためには、上の表のア～ケのどれとどれをくらべればよいですか。また、どちらが何人多いですか。求め方を言葉や数、式を使って説明しましょう。

(解答累計)	
正答	28
差を求めているがどちらが何人多いかの記述が不十分	13
上記以外の誤答	50
無解答	8.9



(考察)
 必要な情報を二次元表から見つけ、求め方を言葉や数、式を使って説明する問題である。今週利用した人数はキの48人、先週利用した人数はウの56人であるので、 $56 - 48 = 8$ 人で先週利用した人数の方が8人多いである。差を求めている児童が13%いるが、問題を十分に把握できていないためであろう。また、あやのさんの考えがヒントとなるので、しっかりと問題に関わる情報を読み取ること必要である。

○【大問18-(1)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白河市正答率	県正答率	全国正答率
分数	示された考えを基に、数の相対的な大きさを使って、分数の加法を整数の加法に直して処理する方法を説明している	30	41.9	32.2	26.3

- 18 ももかさんとやまとさんは、小数や分数の計算のしかたを説明しています。

問題
 水が、0.4Lと、0.2Lあります。水をあわせて何Lありますか。
 $0.4 + 0.2$

ももか
 小数のたし算は、ある数のいくつ分かを考え、整数のたし算に表して、答えを求めることができましたね。

ももかさんは、 $0.4 + 0.2$ の小数のたし算のしかたを、次のように説明しました。

ももかさんの説明
 1Lのいくつ分かを考えます。
 上のように、0.1Lをもとにして考えると、
 0.4Lは0.1Lが4こ、
 0.2Lは0.1Lが2こ、
 0.1Lをもとにすると、 $0.4 + 0.2$ は、 $4 + 2 = 6$ という整数のたし算に表すことができます。
 0.1Lが6こ分なので、答えは0.6Lです。

やまと
 分数のたし算も、同じように考えることができましたね。

問題
 お茶が、 $\frac{3}{7}$ Lと、 $\frac{5}{7}$ Lあります。
 お茶をあわせて何Lありますか。
 $\frac{3}{7} + \frac{5}{7}$

やまとさんの説明
 1Lのいくつ分かを考えます。
 上のように、 $\frac{1}{7}$ をもとにして考えると、

- (1) $\frac{3}{7} + \frac{5}{7}$ について、ももかさんの説明と同じように、ある数のいくつ分かを考えて、整数のたし算に表して説明すると、どのようになりますか。 $\frac{3}{7}$ にはあてはまる数を、 $\frac{5}{7}$ には言葉や数、式を書いて、やまとさんの説明を完成させましょう。

(解答累計)	
正答	40.7
答えまで書いていない	1.2
上記以外の誤答	42.3
無解答	15.9

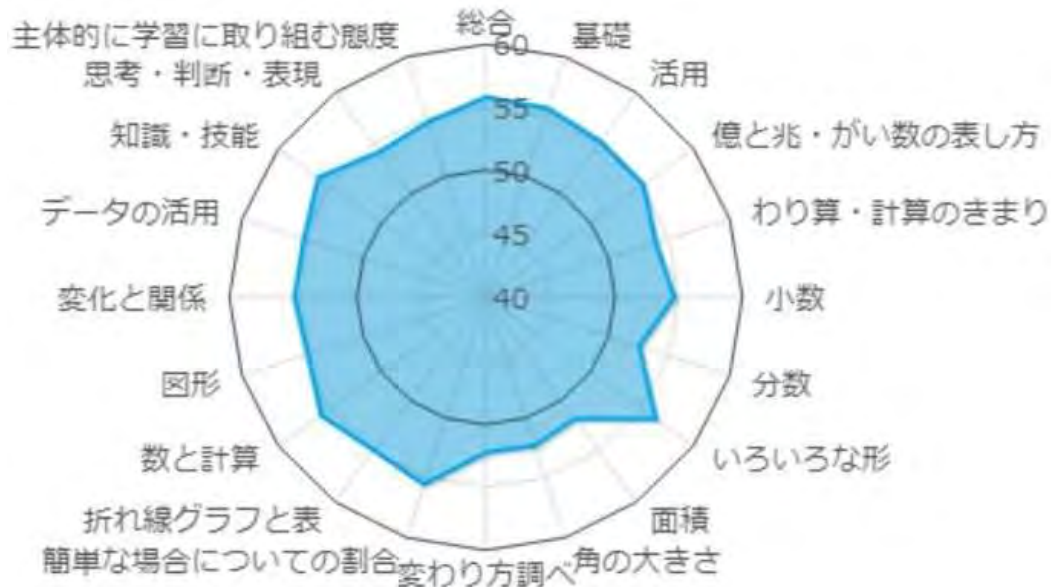
(考察)

分数の計算を、ある数のいくつ分かを考えて整数のたし算に表して説明する問題である。 $\frac{3}{7} + \frac{5}{7}$ は $\frac{1}{7}$ をもとにして考えればよい。小数のたし算を説明した「ももかさんの説明と同じように」とあるので、あとは左ページのももかさんの説明を参考にして考えればよい。よく出題される問題であるが正答率は高くない。ももかさんの説明をしっかりと読み取ることがまず大切である。

○全体の結果から

昨年度と比べ「算数の好きな児童」は5%以上上がった。また、「算数が理解できている児童」は、86.2%の児童が肯定的であり、全国平均より5%高い。先生方のきめ細かい指導や、新大分スタンダードにもとづくめあてと振り返り・課題とまとめを位置づけ、「できた」「わかった」と思える授業の成果だと思われる。

ここ数年およその面積を求める問題の正答率が低い。1cm²、1m²など同じIでも単位によって面積が大きく異なることを自分の身の回りの物の中から探し出すとともに、その両者を並べて比較し、大きさの違いを実感を伴って理解させるなど、身近な物と関連を持たせながら捉える必要がある。同じくかさや重さ、体積などでも身近なものでその量の大きさを捉えさせる必要がある。また、日常的に単位を使って量の大きさを表現させる取り組みを行いたい。(コップ1杯の水は200ml? 200dl? 200l?、黒板の横幅は何m?、ノートのため・よこは何cm等)



【小学校算数 授業改善・指導のポイント】(県の資料より)

(単元づくり)

単元を通して育成をめざす資質・能力を明らかにして、単元を構成する。その際、児童の実態や単元の系統性を確認する。

①児童の実態及び単元の系統性の把握

- ・レディネステストや各種調査等を基に、児童に実態を把握する。
- ・単元の系統性(当該単元とつながりのある既習の学習内容)を確認する。

②育成をめざす資質・能力を明確にした単元構想

- ・当該単元における、育成をめざす資質・能力を確認する。⇒ゴールの明確化
- ・本時と前時・次時との関連を意識し、単元の展開をデザインする。

③評価計画の作成

- ・児童の学習状況を的確に把握するための評価計画を作成する。

(授業づくり)

○問題場面を図や数直線と関連付けて考えさせる等、児童が数量の関係を的確に捉え立式できる手立てを取り入れた活動を行う。

○「考えるための技法」や「思考ツール」等を用いて、児童に情報を読み取るための視点を持たせた上で、意見を出し合ったり、説明し合ったりする活動を授業に位置付ける。

○「説明の基本形」等を利用し、児童が筋道を立てて説明する授業を行う中で、論理的な説明の仕組みに慣れさせる。

令和4年度 大分県学力定着状況調査 小学校 理科

1. 結果の概要

	合計	知識	活用
臼杵市 (偏差値)	52.1	52.4	51.1
大分県 (偏差値)	51.3	51.4	50.9

2. 学びの成果が見られる枝間 (目標値に対して+10ポイント以上)

- 【大問1-(1)】気温の変化のグラフとヘチマのくきの伸び方を関係づけることができる。(+10.6)
- 【大問3-(2)】関節について理解している。(+10.5)
- 【大問4-(1)】気温をはかる条件を理解している。(+32.4)
- 【大問5-(1)】乾電池の向きを入れ替えた時の、車の進む向きを理解している。(+15.2)
- 【大問6-(3)】満月の1日の動きを理解している。(+19.6)
- 【大問8-(1)】温度による空気の体積の変化について理解している。(+10.5)
- 【大問12-(1)】水を加熱するとき沸騰石を入れる理由を理解している。(+10.9)

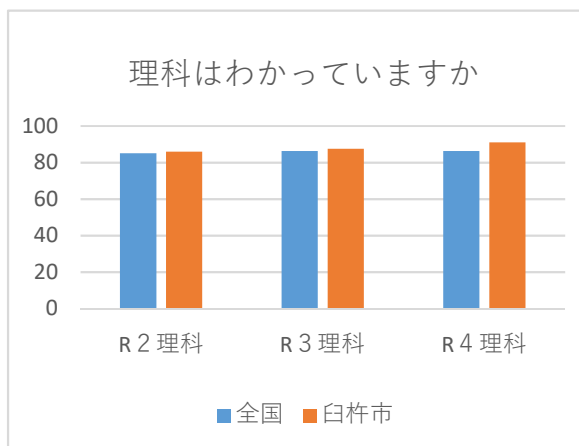
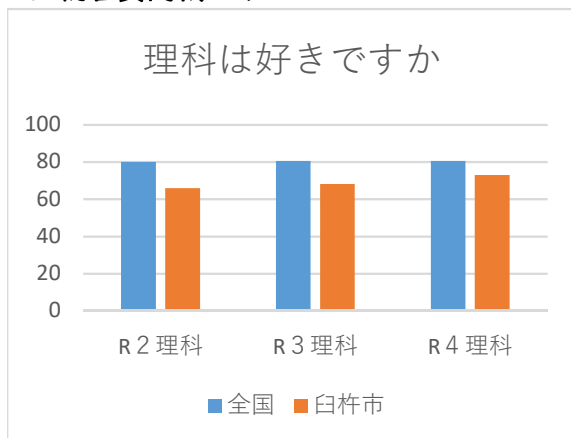
3. ①課題の見られる枝間 (目標値に対して-5ポイント以上)

- 【大問8-(2)】温度による物の体積の変わり方を利用したものを指摘できる。(-8.5)
- 【大問12-(3)】水を熱したときの温度変化を表す折れ線グラフをもとに水の量の違いと沸騰する温度を関連付けて記述できる。(-8.0)
- 【大問12-(4)】湯気は液体であることを理解している。(-18.6)

②課題の見られる枝間 (正答率が50%以下の問題)

- 【大問4-(2)】記録温度計の記録から、天気の変化を推測できる。(39.4)
- 【大問5-(2)】乾電池を2個使って、乾電池が1個の時よりも速く走る車にするための回路を作図できる。(31.7)
- 【大問6-(4)】半月の1日の動きを理解し、どの時刻の半月か判断できる。(26.4)
- 【大問8-(2)】温度による物の体積の変わり方を利用したものを指摘できる。(41.5)
- 【大問9-(2)】実験の結果をもとに、土の粒の大きさとお水のしみこみやすさの関係を記述できる。(49.2)
- 【大問12-(3)】水を熱したときの温度変化を表す折れ線グラフをもとに水の量の違いと沸騰する温度を関連付けて記述できる。(22.0)
- 【大問12-(4)】湯気は液体であることを理解している。(11.4)

4. 総合質問紙より



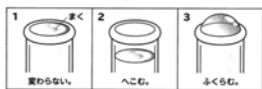
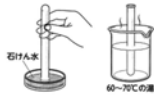
5. 調査結果をふまえた授業改善のポイント

○【大問8－(2)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
物の体積と温度	温度による物の体積の変わり方を利用したものを指摘できる	55	41.5	47.9	49.6

8 物の体積と温度について、次の問題に答えましょう。

- (1) 次の図のように、試験管の口に石けん水のまくをつけてから、試験管を濡らしました。このとき、石けん水のまくはどのようになりますか。あとの1～3から1つ選んで、その番号を書きましょう。 ●



- (2) 温度による物の体積の変わり方を利用したものはどれですか。次の1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。 ●



(解答累計)	
①	27.2
②	41.5
③	15.9
④	14.2

(考察)
 正答は②の温度計である。温度計は、温度によって液の体積が変わる性質を利用している。①の誤答が多いのは、実際に風船が、温度が温まると気体の体積が増えることを見たことがある児童が多いと思われるが、その性質を利用しているものではない。③④は、温度による体積の変化は起こらない。

○【大問12－(3)】

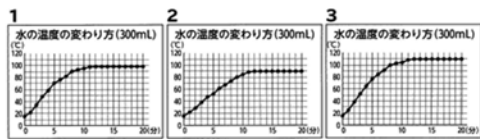
問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
水のすがた	水を熱したときの温度変化を表す折れ線グラフをもとに水の量の違いと沸騰する温度を関連付けて記述できる	30	22	23	23.1

○【大問12－(4)】

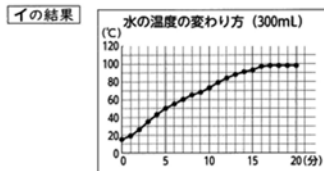
問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
水のすがた	湯気は液体であることを理解している	30	11.4	14.3	14.7

- (1) 左ページの実験の①の下線部のように、ふっとう石を入れるのはなぜですか。次の1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。 ●
- ゆっくりと熱するため。
 - 急にふっとうするのをふせぐため。
 - はやくふっとうさせるため。
 - ふっとうしたときのあわを大きくするため。

- (2) みほさんの考えが正しければ、イのグラフはどのようになりますか。次の1～3から1つ選んで、その番号を書きましょう。 ●



- (3) 実験の結果、イは100℃でふっとうし、次のようになりました。



このことから、水を熱したときに水がふっとうするまでの時間や温度と、水の量との関係について、どのようにいえますか。「時間」、「温度」という言葉を使って、書きましょう。 ●

- (4) 右の図は、熱しているときのやかんのようすです。やかんの口から出てきて、白く見える湯気のような水のすがたを何といいますか。 ●



12－(3) (解答累計)	
正答	22
指定語句を使っているが、グラフを 読んでいるだけの解答	38.2
上記以外の解答	25.2
無解答	14.6

(考察)
 水の量によって、沸騰するまでの時間や温度の違いを比較して見る問題である。アのグラフとイのグラフを比較し、沸騰するまでの時間は水の量が多いほどかかるが、温度は変わらないことを説明しなければならない。グラフの見取りや、結果からの検証が不十分であったと思われる。また、みほさんの「水の量によって沸騰する温度が違う」という考えが正しいと思った児童もいるのではないかとと思われる。

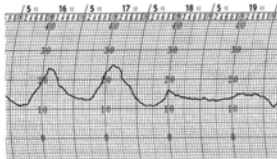
12－(4) (解答累計)	
正答(液体)	11.4
気体	14.6
上記以外の解答	63.8
無解答	10.2

(考察)
 白く見える湯気のような水の姿は液体である。沸騰している水の中から出てきている水蒸気は、冷えると元の水に戻る。湯気は、水蒸気が冷やされて小さな水の粒になったものである。そして、また蒸発して水蒸気に戻る。誤答の多くは、水蒸気と答えたものと思われる。

○【大問4－(2)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
天気の様子と気温	記録温度計の記録から、天気の変化を推測できる。	30	39.4	34.3	31.1

(2) 次の図は、百葉箱の中の記録温度計(自記温度計)の記録です。こうきさんとあおいさんは、このグラフを見ながら、あとのように話しています。



こうきさん: 1日の気温の変わり方のようですが、日によってちがっているね。

あおいさん: 18日と19日は、グラフの形がにているけど、少しちがうね。18日の天気は、()と思う。

あおいさんの考えの()にあてはまる言葉として、もっともふさわしいのはどれですか。次の1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 午前も午後も雨またはくもりだった
- 2 午前は晴れて、午後は雨またはくもりだった
- 3 午前は雨で、午後はくもりだった
- 4 午前も午後も晴れだった

(解答累計)	
①	37.6
②	34.3
③	25
④	2.6

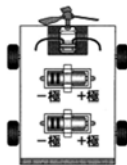


(考察)
正答は、午前中気温が上昇しているため天気は晴れ、午後は気温の変化がないため雨または曇りであるので②である。①の誤答が多いのは、午前中の気温の上昇が前日と比べて少ないことから曇りと考えられる。④の誤答は少ないことから、気温の変化が小さい時は、雨または曇りということを理解している児童が多いことが分かる。

○【大問5－(2)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
電気の働き	乾電池を2個使って、乾電池が1個の時よりも速く走る車にするための回路を作図できる。	30	31.7	36.2	33

(2) かん電池を2つ使って、この車をさらに速く動くようにするために、どのようにどう線をつなげばよいですか。答えは解答用紙に書きましょう。



どう線をどのようににつなげたいのかな。

(解答累計)	
進行方向に進むように、直列つなぎを作図している	31.3
直列つなぎをしているが、電流の向きが進行方向とは逆の作図	0.4
並列つなぎをしている	16.7
上記以外の解答	48.4
無解答	3.3

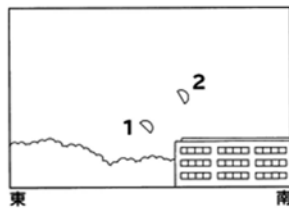


(考察)
乾電池2個を使って車がさらに早く動くためには、直列つなぎにすればよい。直列つなぎにするためには、乾電池の＋－の順につなげなければならないが、誤答の多くは、乾電池の＋と＋、－と－をつないで作図をかいたと思われる。解答用紙に導線を作図する問題に慣れていないため、導線がクロスすることが、おかしいと感じた児童もいたのではないと思われる。

○【大問6－(4)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
月と星	半月の1日の動きを理解し、どの時刻の半月か判断できる	30	26.4	23.9	23.1

(4) 別の日の午後2時と午後3時に半月を観察すると、右の図のように見えました。次の(㊸)～(㊺)にあてはまる方位を書きましょう。また、(㊻)には、図の1, 2のどちらかを選んで、その番号を書きましょう。



半月は、満月と同じように、(㊸)から出て(㊺)の空を通り、(㊻)にしずむことから、午後2時に見えた月は、図の(㊸)のほうであると考えられます。

(解答累計)	
正答	26.4
誤答	71.5
無解答	2



(考察)
半月の動きを問う問題である。正答は、東・南・西・北の順である。満月と同じようにと書いてある。「満月と同じように」と書かれているので、前問の満月の動きの正答率が84.6%のため、東・南・西は多くの児童が正答し、2時と3時の半月の位置で間違った児童が多いと思われる。東→南→西の空を通ることから、時間の早い2時は①が正答となる。

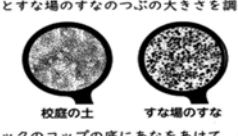
○【大問9－(2)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
雨水のゆくえと地面の様	実験の結果をもとに、土の粒の大きさと水のしみこみやすさの関係を記述できる	45	49.2	51.4	51.9

(2) 雨のふった次の日、校庭には水たまりができていましたが、すな場にはできていませんでした。そこで、次のような実験をしました。

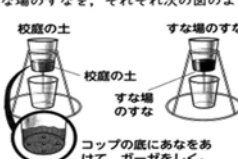
【実験】

① 校庭の土とすな場のすなのつぶの大きさを調べた。



校庭の土 すな場のすな

② プラスチックのコップの底にあなをあけて、ガーゼをしき、校庭の土とすな場のすなを、それぞれ次の図のように入れた。




校庭の土 すな場のすな

校庭の土 すな場のすな

コップの底にあなをあけて、ガーゼをしき。

③ 上から同じ量の水を入れ、水がしみこむまでのようすを調べた。



【結果】

・すな場のすなは、校庭の土よりもはやく下に水がたまった。

上の実験の結果から、つぶの大きさと水のしみこみやすさについて、どのようなことがいえますか。「つぶの大きさ」という言葉を使って、説明しましょう。

(解答累計)	
正答	49.2
指定語句を用いているが、水のしみこみやすさと関連付けて説明できていない	22
上記以外の誤答	23.2
無解答	5.7



(考察)

土の粒の大きさと水のしみこみやすさを関連付けて説明する問題である。正答は、「土の粒が大きいほど水がしみこみやすい」である。粒の大きさを示した絵や、実験の結果も問題に書かれているので、それらを関連付ければ正答は導き出せる。

○全体の結果から

全国と比べて、まだまだ理科嫌いの子が少なくはないが、「理科が好きである」と答える児童が2年間で7パーセント近く上がっている。生徒自身が観察、実験を中心とした探求の過程を通じて課題を解決したり、新たな課題を発見したりする経験を可能な限り増やしていくことが重要であり、このことが理科の面白さを感じたり、理科の有用性を認識したりすることにつながっていくと考えられる。

【問題解決の過程における教師の効果的な指導・支援】(県の資料より)

①問題・課題を見いだす場面…日常生活との関連付けを意識して授業を構想する。

○自然の事象と出合わせ「問い」をもたせる

- ・実物、写真や動画を見せる。 「あれ？」
- ・観察や実験を行う。 「なんで？」
- ・対象物等を自由に触れさせる(自由試行) 「どうやったの？」
- ・ものづくりを行う。 など

○「問い」から解決可能な問題・課題を設定する。

・「～は…とどのような関係があるのだろうか」のように、実験等において解決可能な問題・課題を設定する。「なぜだろうか？」の問題・課題解決は難しい。

②検証計画の立案の場面

○既習の実験方法を思い出させる。ヒントとなる実験道具を示す。

例「これまでに学んだことを使って調べる方法はないかな？」

例「この前の学習では、調べたい条件の日光は、当てるものと当てないものを用意しましたね。今回は、何をどのようにしたらいいかな？」

○他者に説明する等して、実験方法を改善できるようにする。

例「他の班に行って自分たちの考えた実験方法を説明しましょう。」

例「説明を受けた人たちはアドバイスや質問などをしましょう。」

例「どのようなやり方がいいか話し合い、実験の計画を完成させましょう。」

○予想される結果について見通しをもたせる。

例「この実験をして、どのような結果が出たら、何といえるかな？」

③結果の処理、考察、結論の導出の場面

○実験結果と考察、結論を区別させる。

- ・結果は「事実」、考察は「結果からわかったこと（解釈）」を書く
- ・教師が一方向的に結論をまとめるのはNG。
- ・子ども同士の対話を通して表出した言葉をもとに結論をまとめる。
- ・結論は、課題に対して正対するように表現させる。



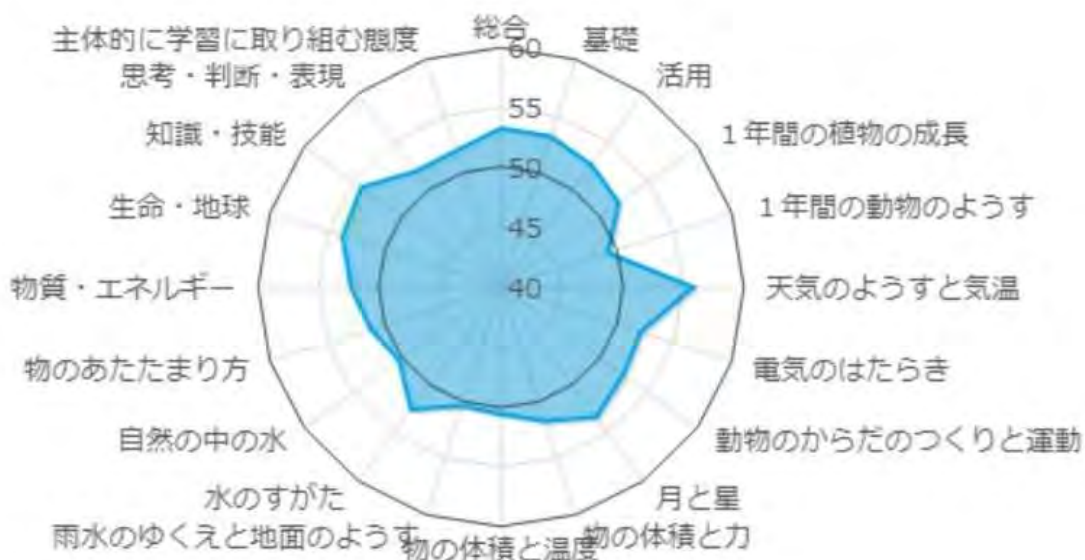
○助言や問いかけにより視点を明確にする。

- ・教師の助言や問いかけによって視点を明確にし、自分の考えを表現できるように支援する。

- 「何がどのように違うの？」（比較）
- 「何が関係しているの？」（関係づけ）
- 「どのようなことが言えるの？」（結論）

※内容のまとめりや単元の最後には、学習したことを基に、もう一度日常生活に目を向けさせる。

学 年	育成したい問題解決の力	育成のための方法	頭の使い方
3年	差異点や共通点を基に問題を見出す	複数の自然の事物・現象を比較する	比較（比べる）
4年	既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する	自然の事物・現象同士を関係づけたり、既習の内容や生活経験と関係づけたりする	関係づける（つなげる）
5年	予想や仮説を基に、解決の方法を発想する	自然の事物・現象に影響を与えると考える要因を予想し、どの要因が影響を与えるか調べる時に、これらの条件を制御するといった考え方をを用いる	条件制御（変える・そろえる）
6年	妥当な考えを作り出す	より妥当な考えをつくり出すことは、自分がすでに持っている考えを検討し、より科学的なものに変容させる。自然の事物・現象を多面的に考える	多面的に（いろいろな見方で）



中学校・臼杵プロジェクト会議での教科別分析 **国語**

担当： 西中（ 中川 幸恵 ）

	教科全体	知識	活用
偏差値 (全国平均：50)	53.8 (県 51.4)	53.8 (県 51.4)	53.2 (県 51.2)
正答率	74.6 (県 69.8)	(設問中の正答率の割合)	
達成率	85.2 (県 77.0)	(目標値以上の正答率に達した生徒の割合)	

	数値が高い	数値が低い
問題	漢字を読む 74.5 文法・語句に関する事項 90.8 説明的な文章の内容を読み取る 64.2 文学的な文章の内容を読み取る 78.6 文章を書く 79.3	話し合いの内容を聞き取る 33.6 (目標値-6.4)
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項 80.1 情報の扱い方に関する事項 53.1 我が国の言語文化に関する事項 93.7 話すこと・聞くこと 67.0 書くこと 82.1 読むこと 66.0	
観点	知識・技能 76.7 思考・判断・表現 70.4 主体的に学習に取り組む態度 65.6	
フォローアップ すること	1 (3) 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている 33.6 (目標値 - 6.4)	

【概要】

- 臼杵市の平均正答率 (県+4.8 全国+7.6) は目標値 (+12.1) を上回り、達成率も県・全国 (県+8.2 全国値+13.8) を上回っている。
- 臼杵市としては全26問中27問が目標値を上回っており、知識・技能、思考・判断・表現ともに力がついていると考えられる。
- 記述問題6問中5問の無回答率が県を下回っており、解答しようとする意欲が見られる。
- 正答率度数分布グラフにおいては正規分布で、正答率80%~100%の生徒数は県を上回るか同等で、60%以下の生徒は県を下回っている。
- △「話し合いの内容を聞き取る」の「話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている」は完全正答反応率が33.6%(目標値40.0 県35.2)と低く、つまずきが見られる。誤答類型で最も多かったのは、指定語句を使って指定文字数と指定表現(「話すように」)で書いているものの読み取った内容が不十分である解答だった。書くことに抵抗は少なく、解答文を整えることもできるが、読み取った内容を文章化する点に課題があると考えられる。

【臼教研国語部会で確認すること】

- 学校ごとにつまずきがある内容が違うので、自校できちんと分析し、授業や定期テストで定着を図る。
- 「小学校で学習した漢字を正しく書く」は県正答率も高く、臼杵市と同等である。引き続き、学習する機会を設けるとともに、各ブロックの小中一体教育で結果を報告し、指導の徹底を依頼する。
- 「説明的な文章の内容を読み取る」の「情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈している」は県正答率と同等である。他教科にも影響する内容であるため、2年生の[B書くこと]の指導事項ウについて、「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと」の学習と関連を図る。さらに、資料の中にある情報が、自分の伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかを検討する場面を設定するとともに、書いた文章を互いに読み合い交流する活動を通して、根拠を明確にして書く力を身につけることを指導する。
- 複数の資料を合わせて「読むこと」に依然として課題がある。読み方を教えるとともに、読み慣れる学習を積み重ねる必要もある。

中学校・臼杵プロジェクト会議での教科別分析 **社会**

担当： 学校教育課（足立 和寛）

	教科全体	知識	活用
偏差値 (全国平均：50)	53.2 (県 50.5)	53.4 (県 50.7)	52.2 (県 50.0)
正答率	62.7 (県 57.3)	(設問中の正答率の割合)	
達成率	71.6 (県 60.1)	(目標値以上の正答率に達した生徒の割合)	

	数値が高い	数値が低い
問題	<ul style="list-style-type: none"> 日本の都道府県について理解 74.5(目標値55.0) 日本の緯度・経度についての理解をもとに、模式図を読み取る 67.2(目標値55.0) 世界のさまざまな宗教について、会話文に着目して考察 85.2(目標値75.0) 欧州の抱える経済格差の課題について、複数の資料をもとに考察 48.7(目標値40.0) オセアニア州の気候と農業について、資料を読み取る 72.0(目標値60.0) 古代文明の特色について理解 59.4(目標値46.0) 卑弥呼について理解 92.6(目標値80.0) 藤原道長の政治について理解 70.8(目標値55.0) 鎌倉幕府の政治に元寇(蒙古襲来)が与えた影響について、複数の資料をもとに考察 76.4(目標値65.0) 勘合貿易について理解 58.3(目標値35.0) 	<ul style="list-style-type: none"> アジア州での農業生産について、資料をもとに考察 28.4(目標値40.0) 乾燥した地域に住む人々の暮らしについて、複数の資料をもとに考察 67.2(目標値70.0) ヨーロッパ州の農業について、資料をもとに考察 25.1(目標値30.0) 南アメリカ州の開発と環境保全について、複数の資料をもとに考察し、表現 39.1(目標値40.0) 武士の成長について、複数の資料をもとに考察し、表現 25.1(目標値30.0)
領域	<ul style="list-style-type: none"> 世界の姿(地理) 71.1(目標値65.0) 日本の姿(地理) 66.2(目標値55.0) 縄文時代～古墳時代(歴史) 73.1(目標値66.0) 飛鳥時代～平安時代(歴史) 72.0(目標値62.5) 中世の日本(歴史・地理) 53.4(目標値45.0) 	
観点	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能 70.2(目標値60.3) 思考・判断・表現 52.9(目標値51.5) 主体的に学習に取り組む態度 54.8(目標値50.0) 	
フォローアップすること	<ul style="list-style-type: none"> 3(2) 乾燥した地域に住む人々の暮らしについて、複数の資料をもとに考察している。 4(1) アジア州での農業生産について、資料をもとに考察している。 (4) アメリカ合衆国の多様な人種について、農業や工業に関する資料をもとに考察している。 8(1) ヨーロッパ州の農業について、資料をもとに考察している。 (2) 南アメリカ州の開発と環境保全について、複数の資料をもとに考察し、表現している。 (3) 武士の成長について、複数の資料をもとに考察し、表現している。 	

【概要】

- 大半の内容、領域、観点の項目において目標値を上回っていた。社会科部会で取り組んできた「社会について問い続ける力を育成する社会科学習のあり方」の研究成果として、生徒が意欲を持って社会の学習に取り組めたことが要因として考えられる。
- 思考を活性化させ、対話を重視した問題解決的な学習を取り入れ、生徒に思考・判断・表現させる授業改善の取組により、資料をもとに思考する問題の正答率が向上してきている。
- △しかし、「複数の資料をもとに考察し、表現する」問題の正答率が低く、普段の授業から考察し、表現させるような取組を重ねていく必要がある。

【臼教研社会科部会で確認すること】

- ・臼杵市全体では大半の項目で目標値を上回っているが、学校ごとの結果を分析すると、学校ごとに課題となる項目がみられる。部会での各校の取組の交流など充実させていきたい。
- ・学習して身につけた知識をもとに、普段の授業から複数の資料をもとに考察し、表現する機会を設けるよう授業を工夫し、情報交換や資料の共有を行う。
- ・各学校ともに、知識の定着率の2極化に留意し、支援が必要な生徒に対する個別学習等の対応が必要。

中学校・臼杵プロジェクト会議での教科別分析 **数学**

担当： 習熟度別指導推進教員：西中（ 秦 美芳 ）

	教科全体	知識	活用
偏差値 (全国平均：50)	52.6 (県 51.2)	52.9 (県 51.4)	51.6 (県 50.3)
正答率	64.5 (県 60.9)	(設問中の正答率の割合)	
達成率	66.9 (県 63.9)	(目標値以上の正答率に達した生徒の割合)	

	数値が高い	数値が低い
問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正の数・負の数 78.9 (目標値 78.9) ・ 文字式 64.5 (目標値 64.5) ・ 1次方程式 76.7 (目標値 67.5) ・ 比例・反比例 60.2 (目標値 50.0) ・ 平面図形 59.1 (目標値 56.0) ・ 空間図形 63.4 (目標値 58.8) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ データの分布と傾向 53.8 (目標値 56.7)
領域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数と式 74.5 (目標値 65.4) ・ 図形 61.0 (目標値 57.2) ・ 関数 60.2 (目標値 50.0) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ データの活用 53.8 (目標値 56.7)
観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・技能 67.3 (目標値 61.2) ・ 思考・判断・表現 53.9 (目標値 50.0) ・ 主体的に学習に取り組む態度 55.1 (目標値 51.9) 	
フォローアップすること	14 角の二等分線の性質を理解し、折り目の線を作図することができる。 15 おうぎ形の面積を求めることができる。 18(1) 累積度数について理解している。 20(1) 階級の度数について理解している (2) 2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いる理由を理解している。	

【概要】

- 基礎基本テストに引き続き、3つの領域で大幅に目標値を超えることができた。
- 基礎基本テストで数値の低かった、比例のグラフを書く問題は目標値を超えフォローアップができています。
- 目標値以上の正答率に達した生徒の割合が、基礎基本テストの60.8から、66.9に大幅に高くなっている。
- 数学部会で、各校の分析にあったフォローアップをお願いした成果が出ている。
- △3学期の最後に行う「データの活用」領域の内容の定着ができていない。
- △2つの分布の傾向を比べる記述の問題は、目標値を上回っているが無回答が25.7%もいる。
- △作図では、文章を読み取ってどの性質を使って作図すればよいのか理解できていない。

【臼教研数学部会で確認すること】

- ・ 2年の「データの分布」を学習する際に、再度「データの傾向」について補充をし、1年の内容と関連付けて学習をする。
- ・ 「1次関数」を学習する際に、表・式・グラフから相互に読み取ることができるような問題を授業やテストでも扱う。
- ・ 記述式の問題では、授業の中でどのような用語をきちんと使って説明すればよいのかをおさえ、問題データベースなども活用する。
- ・ 各校の弱点分野に差があるので、各校の実態に合わせて問題データベースを活用しながら、うすきチャレンジや週末課題などで扱っていく。

中学校・臼杵プロジェクト会議での教科別分析 **理科**

担当： 西中（金子 敦）

	教科全体	知識	活用
偏差値 (全国平均：50)	52.3 (県 50.9)	52.3 (県 50.9)	51.8 (県 50.8)
正答率	57.1 (県 54.5)	(設問中の正答率の割合)	
達成率	64.0 (県 57.9)	(目標値以上の正答率に達した生徒の割合)	

	数値が高い	数値が低い
問題	12項目中7項目が目標値を超えている 植物の分類 74.1 (目標値 63.3) 動物の分類 74.0 (目標値 68.3) 身の回りの物質とその性質 77.8 (目標値 65.0) 気体の性質 67.8 (目標値 38.3) 物質の状態変化 60.8 (目標値 55.0) 光の性質 50.5 (目標値 48.3) 音の性質 81.6 (目標値 75.0)	目標値を超えていない項目は、5項目 水溶液の性質 28.2 (目標値 40.0) 力の性質 43.9 (目標値 45.0) 火山 36.4 (目標値 40.0) 地層 23.7 (目標値 40.0) 地震 53.9 (目標値 57.5)
領域	エネルギー 57.5 (目標値 55.0) 粒子 56.5 (目標値 52.5) 生命 74.1 (目標値 65.0)	地球 35.9 (目標値 45.0)
観点	知識・技能 61.0 (目標値 57.8) 思考・判断・表現 53.5 (目標値 52.1) 主体的に学習に取り組む態度 47.3 (目標値 45.8)	目標値を超えていない項目はない
フォローアップすること	2(2)軟体動物を指摘できる。→アサリをそれ以外の無セキツイ動物と考えている割合が多い。 4(3)水素の性質の知識を適用して水素自動車は水を排出することを指摘できる。→燃料電池の仕組みを押さえる。 9(1)双眼実体顕微鏡の使い方が身についている。正しい操作方法を、説明できる。 10(3)柱状図から考えられることを検討し、考えを改善できる。→正答を指摘できるが、書き直しについて答えることができていない。 13(1)質量パーセント濃度を求める式を理解している。→正しい計算方法を理解できていない割合が多い	

【概要】

- 観点別正答率では、すべての項目で、目標値、県正答率、全国正答率より上回っている。
- 目標値と1.4ポイントマイナスではあったが、県正答率、全国正答率を上回っている。
- 正答率度数分布を見ると、70%以上90%未満の割合が高く、40%以上50%未満の割合が低くなっている。
- 問題の解答で無回答の数がひじょうに少なくなっている。
- △領域別正答率では、地球領域の項目が低くなっている。
- △各校の弱点分野に差がある。
- △解答形式では記述が目標値に達していない。

【臼教研理科部会で確認すること】

- ・正答率別人数の低位層の引き上げはもちろんだが、上位層、中位層を伸ばすため、授業でアウトプットする活動や、単元テスト・定期テストで言語活動・言語表現などを取り入れる。
- ・記述問題に対応する為に、知識・技能を活用して思考・判断し重要用語を使って文章を書くことや、発表するなど表現する活動を授業に取り入れる。
- ・3学期期末テスト後の内容（地球）について再度単元テストや実力考査で出題することや、4月はじめの授業や学習課題としてドリルを行う。
- ・各校の弱点分野に差があるので、理科データベースを活用して、各校の実態にあわせて習熟に応じた課題をテスト期間中や週末課題として出題する。

中学校・臼杵プロジェクト会議での教科別分析 **英語**

担当：西中 指導教諭 半田 文香
北中 英語教育推進教員 岩永 翔

	教科全体	知識	活用
偏差値 (全国平均：50)	52.5 (県 50.0)	52.6 (県 50.0)	52.0 (県 50.0)
正答率	61.1 (県 55.3)	(設問中の正答率の割合)	
達成率	71.7 (県 57.2)	(目標値以上の正答率に達した生徒の割合)	

	数値が高い	数値が低い
問題	リスニング（内容理解） 59.3（目標 56.7） リスニング（対話文の応答） 61.3（目標 55.0） 語形・語法の知識・理解 58.4（目標 55.0） 語彙の知識・理解 90.1（目標 87.5） さまざまな英文の読み取り 61.4（目標 58.8） 長文の読み取り 59.7（目標 53.8）	リスニング（さまざまな英文の聞き取り） 50.7（目標 60.0）
領域	読むこと 64.2（目標 60.4） 書くこと 60.3（目標 48.0）	聞くこと 57.1（目標 57.2）
観点	知識・技能 66.2（目標 61.7） 思考・判断・表現 54.9（目標 48.7） 主体的に学習に取り組む態度 57.1（目標 51.2）	
フォローアップすること	1（2） 絵を適切に表している文を選ぶことができる。 4 英文の要点を聞きとることができる。 5 英文を聞きとり、たずねられたことに対して自分の意見を答えることができる。 10（2） 対話の流れに合った英文を書くことができる。	

【概要】

- 全体としては、平均正答率が61.1%で、県平均正答率を5.8ポイント上回っている。
- すべての観点が県平均正答率を上回っているが、特に上回り方が顕著なのは「思考・判断・表現」であり、平均正答率が54.9%で県平均正答率を6.2ポイント上回っている。
- 「書くこと」について、平均正答率が60.3%であり、県平均正答率を12.3ポイント上回っている。
- △「聞くこと」について、9問中4問が目標値を下回っていた。特に、「さまざまな英文の聞き取り」の問題は3問中2問が下回っている。
- △2技能を活用する問題について、「聞くこと+書くこと」の問題は目標値を16.8ポイント下回っている。
- △「書くこと」について、「対話の流れにあった英文を書く」問題が目標値を3.5ポイント下回っている。
- △正答率度数分布に、二極化が見られる。

【臼教研英語部会で確認すること】

- ・おおむね目標値に達している。
- ・「聞くこと」の領域に課題がある。「聞く」目的を明確にした指導を心掛けると共に、一人一台端末を活用して、ネイティブの英語を聞く機会を授業の中でも増やしていく。教科書音声聞きながら音読練習したり、ALTに音読添削をしてもらったりするなど、正しい英語の発音を通して、聞く力をつけていくことを心掛ける。
- ・「聞いたり読んだりしたことについて書く」などの2領域を統合する力や、「対話の流れに合うように書いたりする」など、状況に合わせた英語を書く力を身に付けさせる必要がある。授業の中で、意識していく必要がある。
- ・二極化をなくしていくために、特に英語を苦手としている生徒への手立てを具体的に意識しながら授業を行う。